

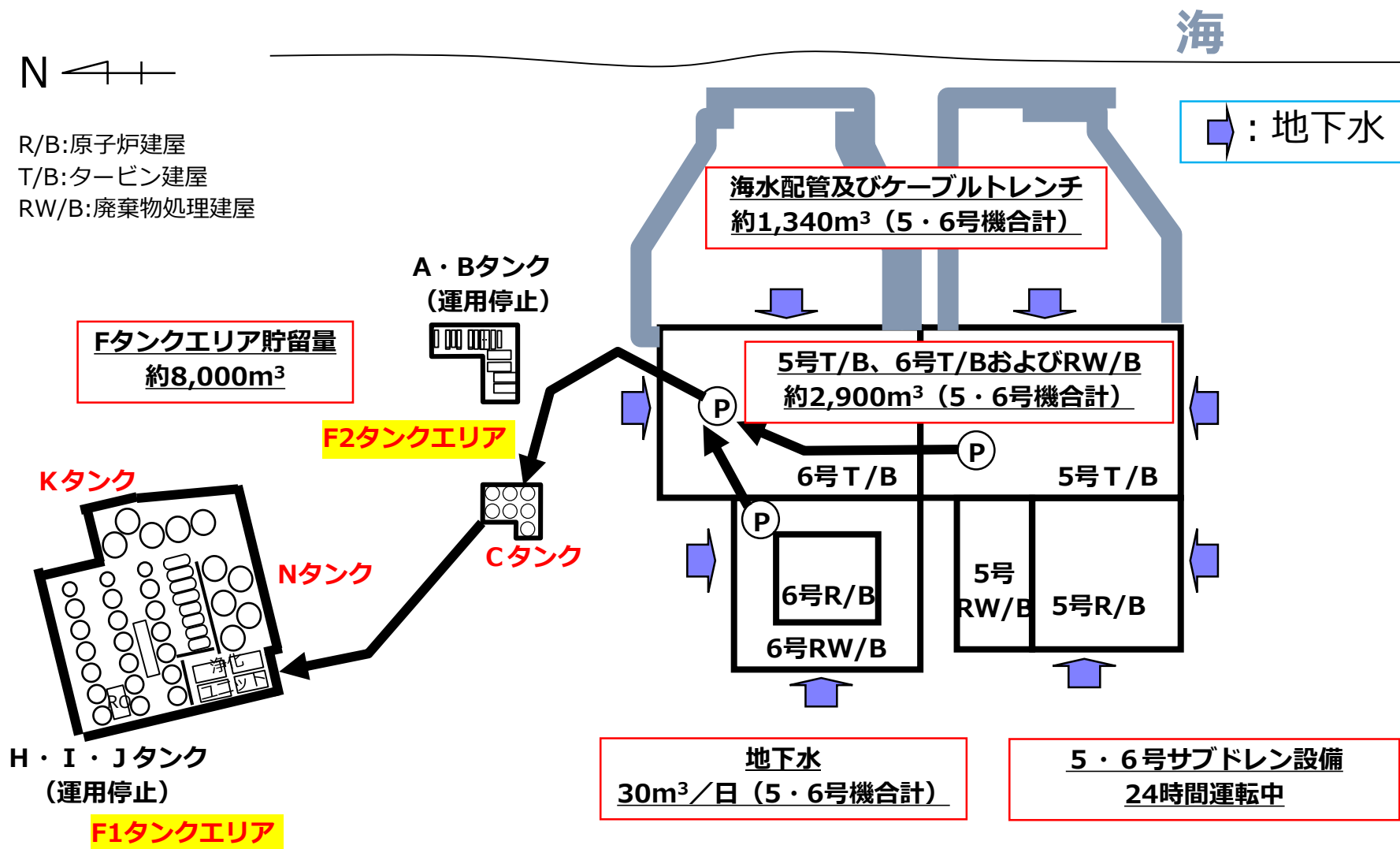
福島第一原子力発電所 5・6号機の現状について

(5・6号機低レベル滞留水の状況)

2024年2月29日

東京電力ホールディングス株式会社

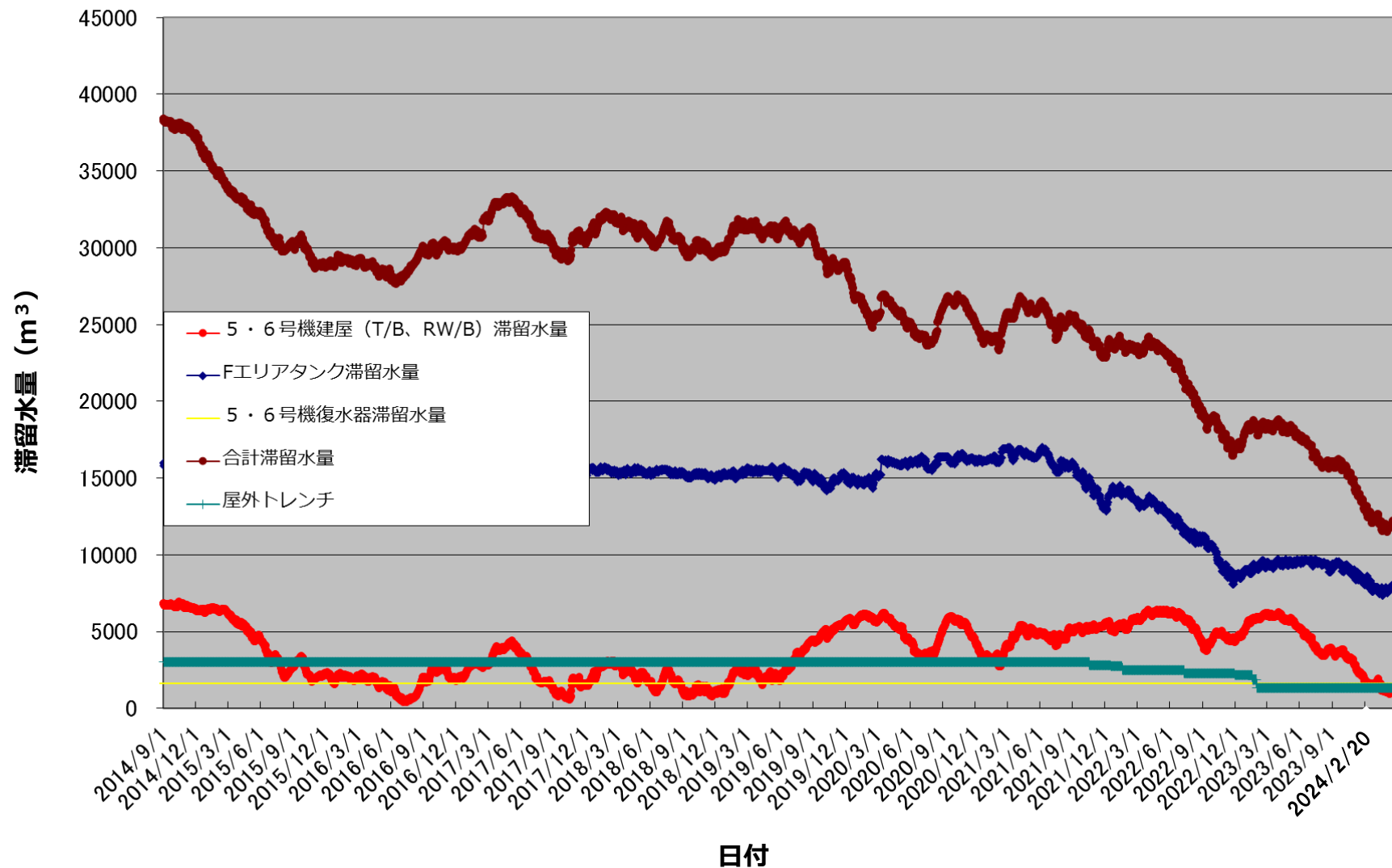
5・6号機 低レベル滞留水量の合計約12,240m³（2024.2.20現在）



※1：5・6号機滞留水は、1～4号機滞留水と比べ放射能濃度が十分低いため、区別する目的で「低レベル滞留水」と記載する。

- 2014年9月から2024年2月までの5・6号機 低レベル滞留水量の推移は以下のとおり

5・6号機 低レベル滞留水量の推移



- 5・6号機サブドレン設備は2022年3月28日より運用（移送）を開始し、現在は24時間運転中※2



— : 配管布設ルート（約1,900m）

■ : 中継タンク設置済（2基）

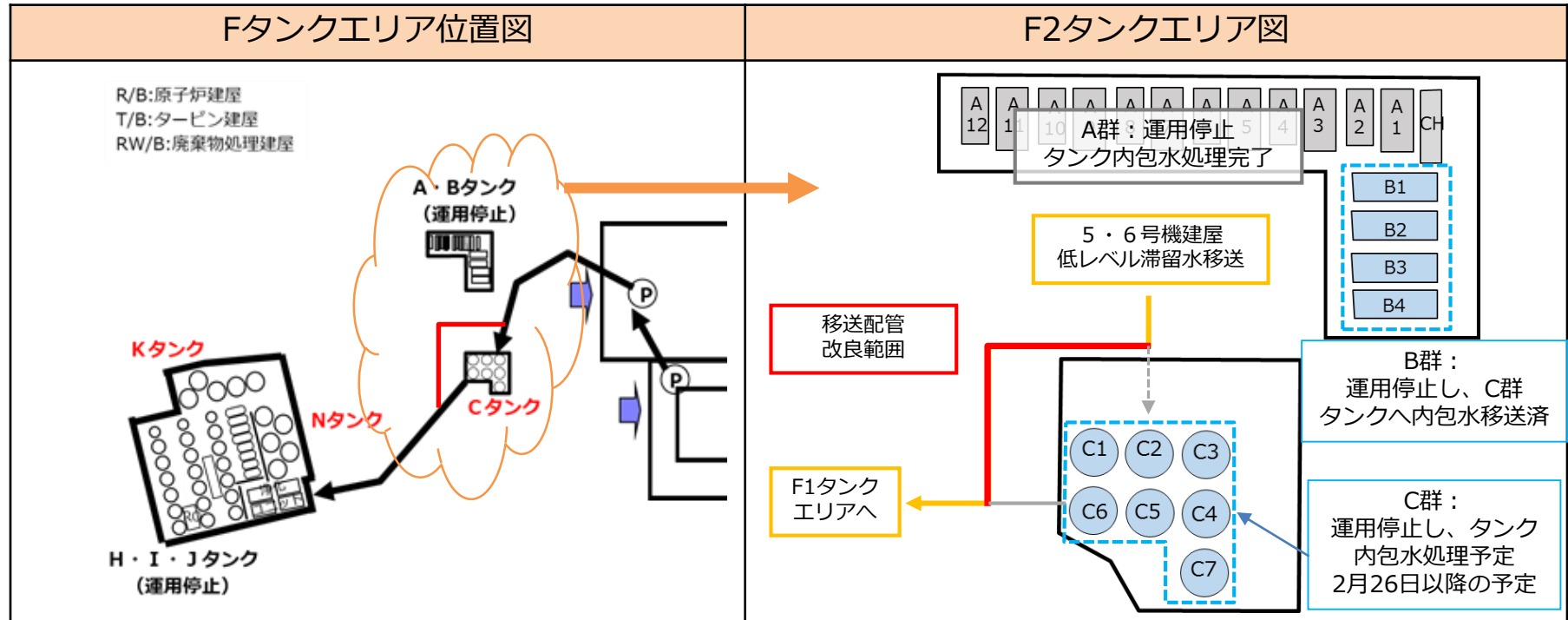
● : 運転中のサブドレンピット・ポンプ(6箇所)

● : 停止中のサブドレンピット・ポンプ(7箇所)

※2：汲み上げ量の監視を行いながら、サブドレンピット・ポンプの運転計画を立てている。

F 1・F 2 タンクエリアフランジ型タンクの運用停止

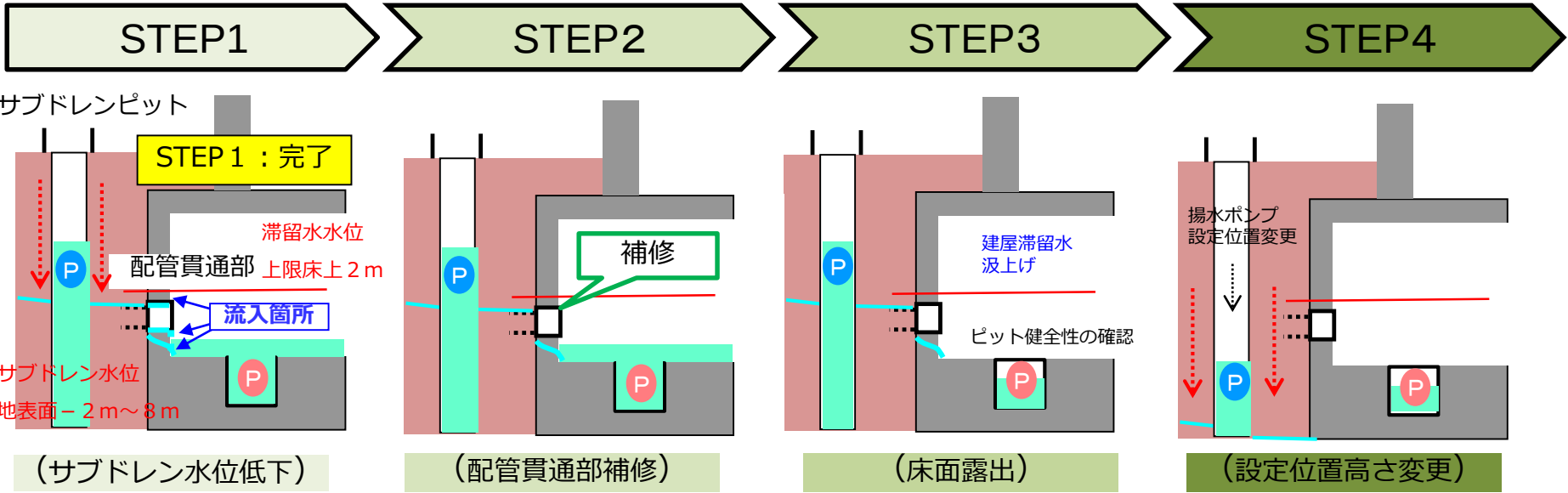
- 地震等による漏洩リスクを除去するため、フランジ型タンクの運用停止、及び内包水処理を実施する。
- 56号機（F1・F2タンクエリア）のフランジ型タンクは、B・C・H・I・J群タンク。
- そのうちH・I・J群（21基）は2022年10月に内包水処理まで完了。
- B群（4基）は運用停止しており、内包水処理を実施。→（2月6日,C群タンクへ内包水移送済）
- C群（7基）は揚程確保の中間タンクのため、運用停止しバイパスラインの新設、それと並行して内包水処理を実施予定。



<凡例> — : 移送配管 (新設) — : 移送配管 (既設流用) — : 移送配管 (運用停止) : 配管取外し箇所

現在

5・6号機建屋の地下水流入量を低下させるため、下記の対策を進めていく。



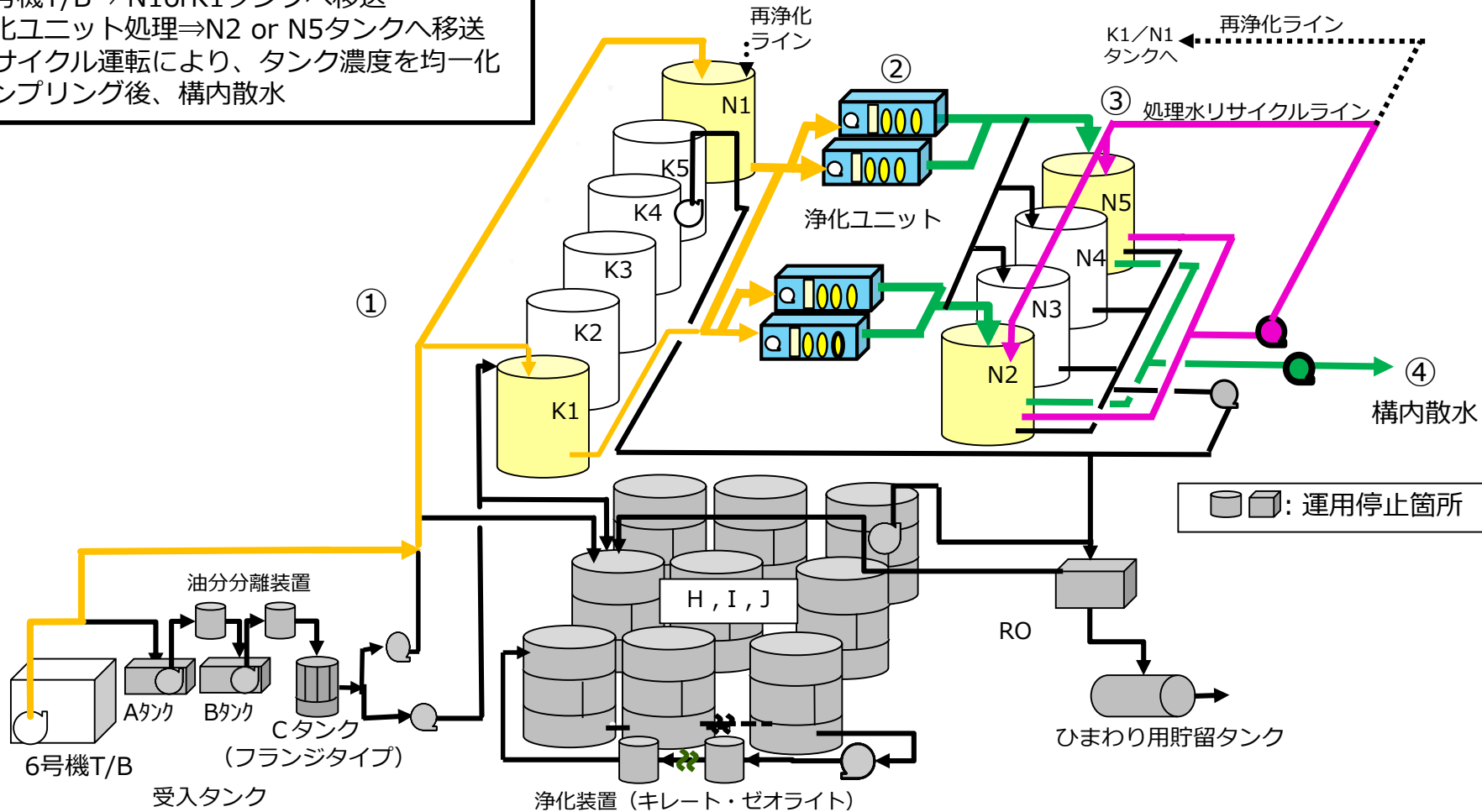
<凡例> P : サブドレン揚水ポンプ P : 滞留水移送ポンプ : 地面・土中 : 各建屋壁面・構築物

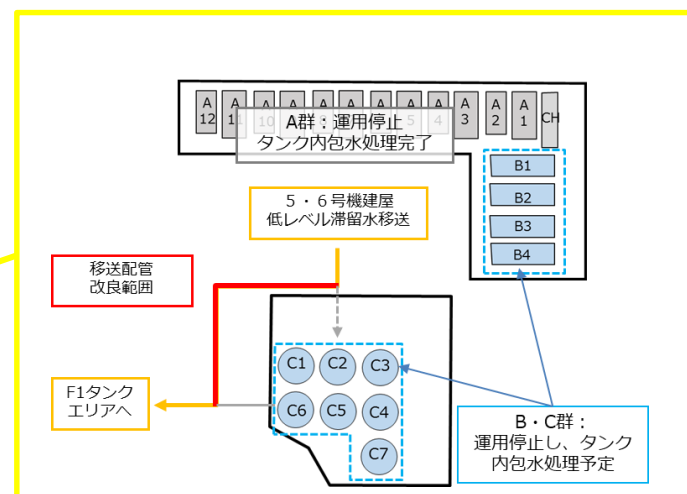
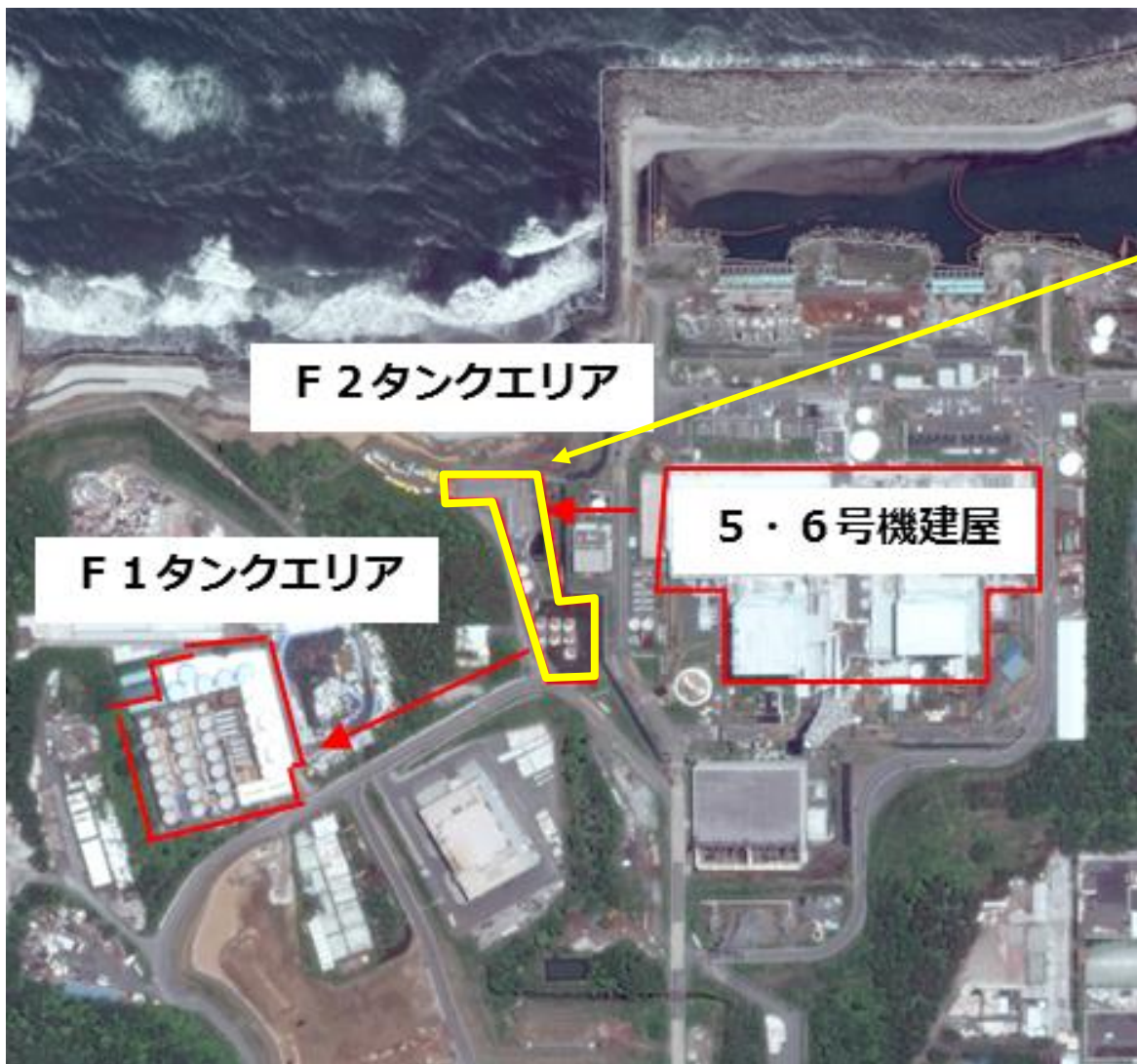
	2024年度				2025年度				2026年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
主要工程	配管貫通部補修 STEP2											
		床面露出・建屋清掃 STEP3										
			サブドレン運用見直し STEP4									

<参考> Cタンク停止後の5・6号機滞留水処理設備の全体概略図

【5, 6号機建屋滞留水処理方法】

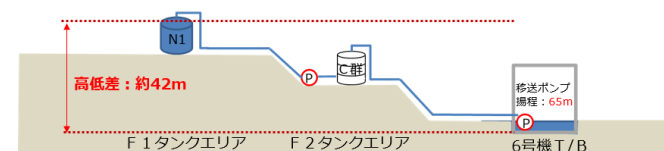
- ① : 6号機T/B⇒ N1orK1タンクへ移送
- ② : 浄化ユニット処理⇒N2 or N5タンクへ移送
- ③ : リサイクル運転により、タンク濃度を均一化
- ④ : サンプリング後、構内散水





> 現状

- ・漏洩リスク低減のため、Fタンクエリアのフランジ型タンクの運用を停止する必要がある。
- ・現在使用している、5・6号機建屋滞留水移送ラインの中間タンク（C群）が対象に含まれる。

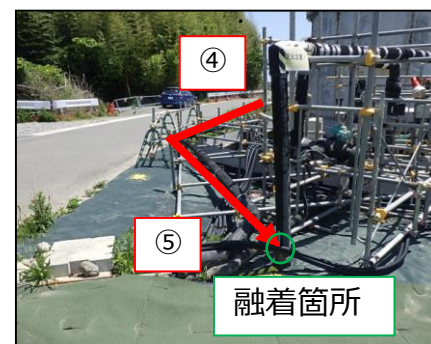
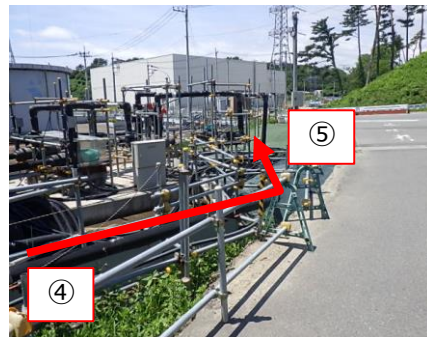
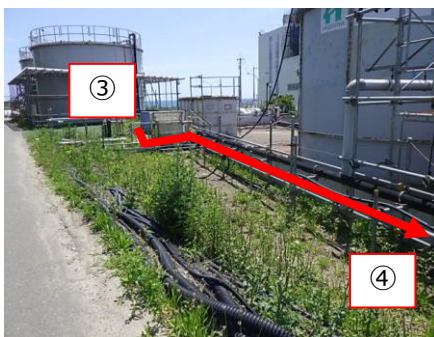
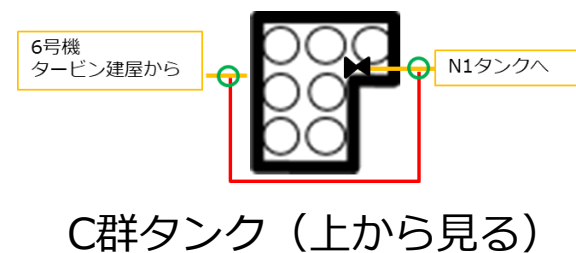
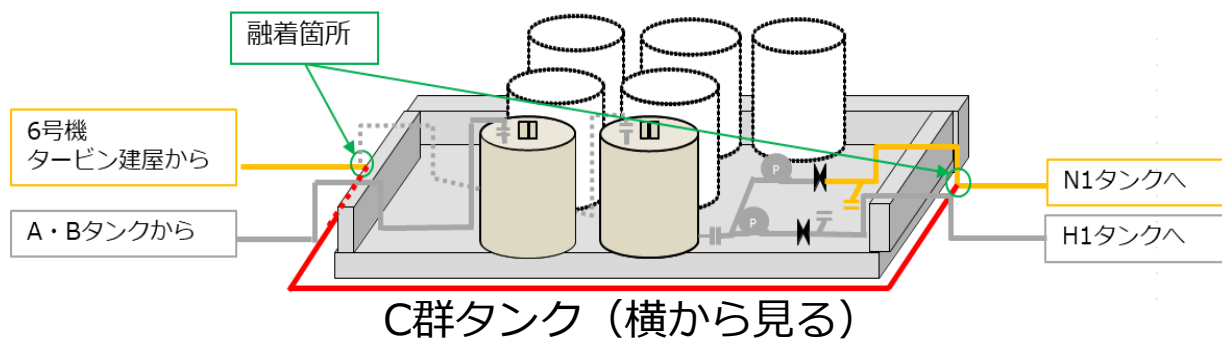
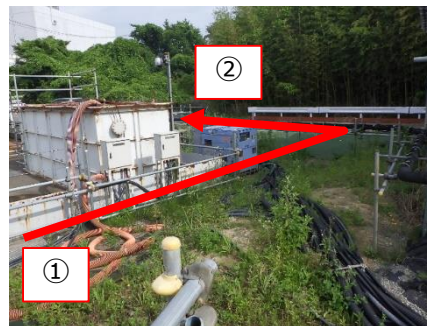


> Cタンク運用停止後

- ・C群タンク運用停止に伴い、6号機T/BからN1タンクへ直接滞留水を移送する配管を設置。
- ・既存の滞留水移送ポンプ（揚程：65m）では、N1タンクまで滞留水を移送出来ないため、滞留水移送ポンプの基本仕様を変更する。（揚程：93m）



<凡例> — : 移送配管（新設） — : 移送配管（既設流用） — : 移送配管（運用停止） : 配管取外し箇所



<凡例> — : 移送配管（新設） — : 移送配管（既設流用） — : 移送配管（運用停止） : 配管取外し箇所   : Cタンク